

(参考)
事例紹介
(国交省HP掲載資料の紹介)

山口県

- 国土交通省HPでは、災害において、事前避難により難を逃れた事例、避難の呼びかけにより難を逃れた事例等が紹介されている。

呼びかけ避難等により難を逃れた事例

理解を促しながら、体制整備

- ◆ 緊急連絡網を活用し、避難を呼びかけにより難を逃れた
- ◆ 役員による電話で避難を呼びかけにより、難を逃れた
- ◆ 家族からの避難の呼びかけにより、難を逃れた
- ◆ 事前の避難により、難を逃れた

等

具体的な事例を紹介することで、**取組について理解**を促しながら、体制整備を支援

日頃の準備により難を逃れた事例(宮城県丸森町五福谷地区)

- 午後3時20分、町内全域に**避難勧告が発令**された。
- 五福谷地区の民生委員**は、異常な大雨に危険を感じ、避難準備を始め、**近隣の住民にも避難を呼びかけた**。
- 午後7時過ぎ、十数人が**高台の家へ避難し難を逃れた**。
- 同地区は、**過去の豪雨で氾濫寸前**であったことから、全戸の**緊急連絡網をまとめ、活用するルールを定めるとともに、日頃から**防災組織の会合等で住民が集まるたびに**避難場所を確認**していた。

ポイント



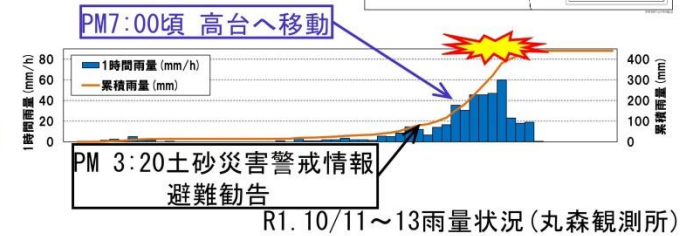
【災害の経緯】令和元年10月12日

PM 3:20 土砂災害警戒情報発表

PM 3:20 避難勧告発令

PM 7:00頃 地区内の住民は、民生委員の呼びかけにより地区の集会所へ避難
→さらに周囲の水位が上昇したため、高台の家へ避難

地区一帯に土砂・流木が氾濫したが既に避難していたため、人的被害なし



丸森町の被災状況(主に五福谷川周辺)



丸森町五福谷地区の被災状況

民政委員の声

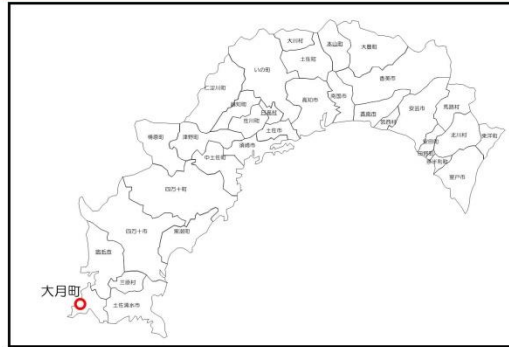
「**普段から連絡網を使っていたおかげ**で、今回も活用できた」

(出典:河北新報報道より)

事前の避難や呼び掛けにより難を逃れた事例(高知県大月町橋浦)

- 大月町内全域に、4時00分に土砂災害警戒情報が発表された。
- その後、5時30分に大月町内全域に避難勧告が発令された。
- 橋浦地区では、区長ら役員が住民の安否を電話で確認し、避難場所(区役場)に避難するよう呼び掛けた。
- 既に道路が冠水するなどして避難することが困難な場合は、自宅の2階など高い場所に避難するよう呼び掛けることで、難を逃れた。

ポイント

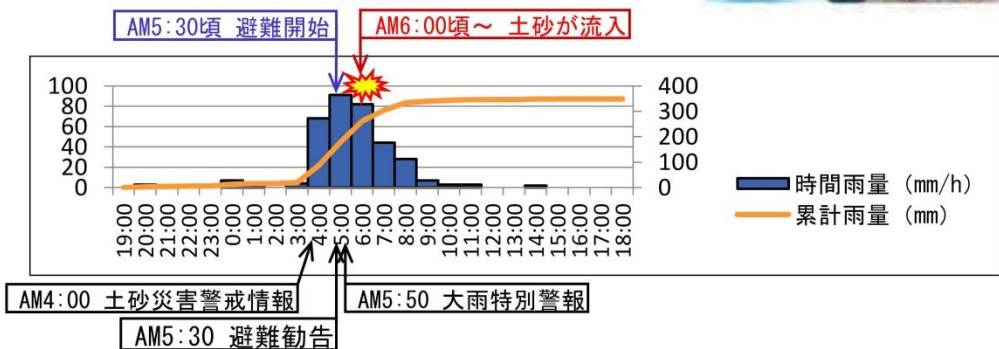


【災害の経緯】平成30年7月8日

- AM4:00 土砂災害警戒情報発表
- AM5:30 避難勧告発令
- AM5:30 避難所へ避難、
自宅内で垂直避難
- AM5:50 大雨特別警報発令
(県西部6市町村)



H30. 7. 7~7. 8雨量状況(弘見観測所)



■2階へ避難
大月町は8日午前4時55分に災対本部を設置。5時半に全域に避難勧告を出したが、宿毛市同様、道路冠水などが始まっていた。約150人が暮らす橋浦地区は町役場から車で約20分の海岸沿い。5時には膝まで道路が冠水し、27棟が床上、床下浸水した。山本梅市区長(75)ら役員は区役場から住民の安否を電話で確認し、区役場に避難するよう呼び掛けた。避難してきたのは5人で山本区長は『家周辺が危険なら2階など高い場所に逃げて』と説明した。町役場からも遠いので、それぞれ判断してくれたと思う』と話す。(高知新聞 平成30年8月14日(火)掲載)

家族からの避難の呼びかけにより難を逃れた事例 (群馬県下仁田町)

○下仁田町では、10時23分に土砂災害警戒情報が発表され、10時50分に避難勧告が発令された。

○同町中小坂地区に住む夫婦は、今まで自宅裏側の斜面が崩れたことがなかったため避難の必要はないと考えていたが、娘から促され町外にある娘宅に避難した。

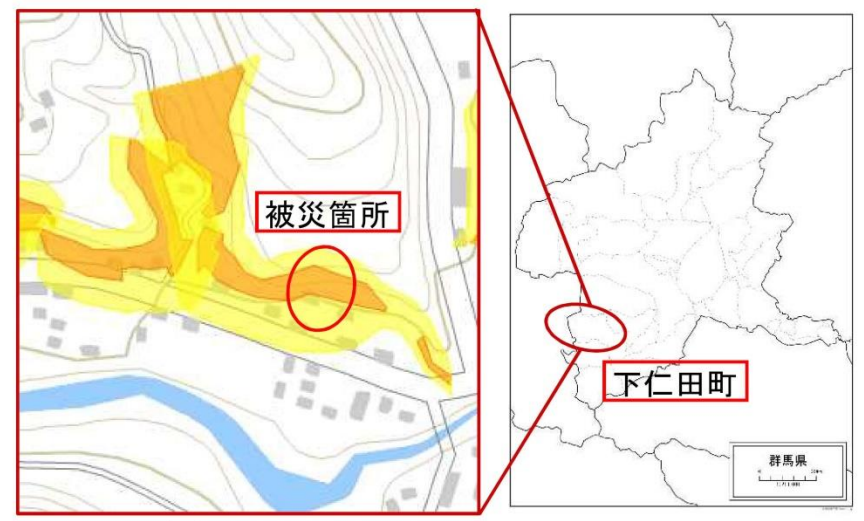
○翌日、帰宅すると、自宅裏側の斜面が崩れ、その土砂により自宅が倒壊しており難を逃れた。

ポイント

【災害の経緯】

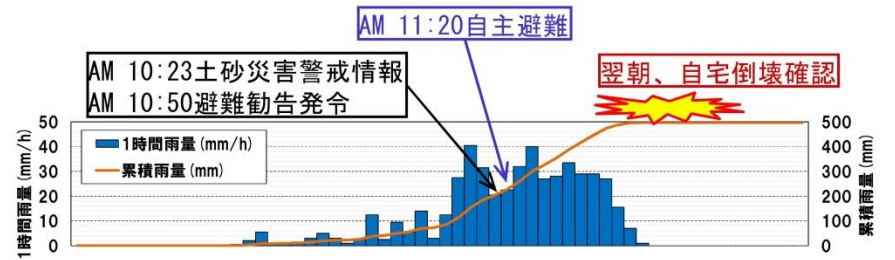
- 令和元年10月12日
- AM 10:23 土砂災害警戒情報発表
- AM 10:30頃 中小坂地区に住む夫婦は、町外に住む娘に避難を促される
- AM 10:50 避難勧告発令
- AM 11:20頃 中小坂地区に住む夫婦は、町外に住む娘宅に避難

令和元年10月13日
 早期帰宅すると、自宅裏側の斜面が崩落しており、自宅が倒壊していた



■ 土砂災害警戒区域
 ■ 土砂災害特別警戒区域

被災箇所及び土砂災害警戒区域等指定状況



R1. 10/11~13雨量状況 (西野牧観測所)

事前の避難により難を逃れた事例(富山県魚津市)

- 魚津市では、午後10時30分に土砂災害警戒情報が発表され、県から市防災部局や消防部局にはFAX及びメールにて情報伝達された。
- これを受け、市から速やかに地域の自主防災組織のリーダーや区長へ連絡を行った。(夜間の避難による2次災害を懸念し、避難勧告は発令せず)
- その後、住民が前兆現象(木が折れるような音等)に気づき、災害発生前に公民館に自主避難を行った。(区長の呼びかけが前兆現象の早期発見や自主避難に繋がった)



ポイント

【災害の経緯】平成26年7月19日

PM 10:30 土砂災害警戒情報発表
市から区長等へ連絡

PM 11:00頃 住民が前兆現象を確認し、土砂災害警戒区域外の公民館へ
自主避難(15世帯40人)

AM 0:00頃 土石流が発生し神社が倒壊



倒壊した東山神社

【現地の方の声】

- ・山からバリバリと木が折れる音が聞こえた。
- ・たい肥のもっと腐った臭いが強くなり、身の危険を感じた。
- ・土砂が崩れて、家が埋まってしまうんじゃないかとすごく怖かった。
- ・このまま家にいたらダメと思い逃げなくてはと思った。

